

年 長 児 保 育 案

うみ組 男児16名 女児18名 計34名
保育者 梁瀬 加那子 鳩宿 恵理香

1 幼児の実態

子どもたちは、これまでの経験を存分に生かして、園内の様々な環境に積極的ににかかわりながら、友だちと一緒に共通の目的をもって楽しく遊んでいる。友だちと思いがうまく伝え合えたことで遊びがより楽しくなったり、うまく伝え合えずに困ったりするなどの経験を積み重ねて、相手の思いに気付いたり、自分の気持ちを調整したりしながら遊びを進めるようになり、友だちとのつながりも深まってきている。また、幼稚園のリーダーとして行事などで活躍した経験から、友だちと協力してやり遂げる達成感や満足感、充実感を味わい、異年齢児の手本になる喜びを感じている。小学校への期待感も大きく、一層年長児としての自覚が高まっている。

戸外では、友だちと誘い合ってドッジボールや鬼ごっこなどの体を動かす遊びを楽しんでおり、ルールや役割を話し合いながら遊びをより面白くしようとしている。冬の冷たさを感じながらも砂や土、水を使った遊びが見られ、友だちとイメージを伝え合いながら料理をつくり、共有する楽しさを存分に味わっている。自然への関心も高く、特にヒヤシンスの成長の様子を友だちや保育者に喜んで伝えてくる姿が見られる。

室内では、毛糸を使って指編みなどの編み物を楽しんでおり、つくり続ける楽しさを感じながらじっくりと取り組む姿が見られる。また、身近な素材を使った遊びを楽しむ子どもが多く、自分のイメージに合わせながら空き箱やペットボトルなど、これまで使ったことのあるものを組み合わせて工夫してつくっている。大型積み木では、友だちとイメージを共有しながら基地をつくって遊びを楽しむ姿が見られる。

このように、子どもたちは、これまでの経験を存分に生かし、積極的に身の回りの環境にかかわりながら様々な遊びを楽しんでいる。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、これまでの経験を生かして、友だちと一緒に存分に遊びを楽しみながら過ごしている。

そこで、戸外で体を動かす遊びや季節感ある遊びを通して、自分たちで遊びを進める面白さやじっくりと取り組む楽しさを味わえるようにしたい。

ドッジボールは、ルールを互いに理解しながら遊びを進め、友だちとのつながりを深めながら、協同して遊ぶ面白さを味わうことができる遊びである。チームに分かれて友だちと協力する楽しさも味わうことができ、相手に勝った喜びや次のゲームへの意欲などをチームの友だちと共有することができる。また、体を動かすことでだんだん体が温かくなってくることも感じられるだろう。

季節感を味わう遊びとして、毛糸を使った遊びも取り入れている。じっくりと集中して自分なりに工夫したり、友だちとやり方を教え合ったり、出来上がった達成感や満足感を味わうことができる遊びである。

こうした遊びは、卒園が近付いてくる中で、学級という集団を意識し、友だちと協力して様々な活動に取り組む子どもたちの姿へとつながっていくと考える。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 学級の友だちと共通の目的をもって、思い切り遊ぶ。
- 自分たちで工夫し合い、友だちとのつながりを深めながらいろいろな遊びを楽しむ。

(2) 内容

- 自分たちなりの目的や見通しをもって、学級の友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。
- これまでの経験を生かし、学級の友だちと協力して園生活を楽しむ。
- 異年齢児に親しみの気持ちをもってかかわり、優しく教えたり、リードしたりしながら、一緒に遊びを楽しむ。
- 氷や霜柱などの冬の自然に触れて、その不思議さに気付き、興味をもってかかわる。
- 冬の健康な生活の仕方が分かり、手洗い・うがいや衣服の調節など進んで行う。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友だちと共通の目的をもち、一緒に遊ぶ楽しさを存分に味わう。
- 互いにイメージを伝え合ったり、考えを出し合ったりしていろいろな遊びを楽しむ。

(2) 内容

- 友だちと誘い合って遊び、ルールを話し合ったり、協力したりしながら遊びを進める。
- これまでの経験を生かし、自分たちの身の回りのものを使って、友だちと工夫しながら遊びを楽しむ。
- 年下の友だちに優しく接し、遊びの仲間に入れたり、できることを教えたりする。
- 冬の寒さを感じながらも、体を動かして遊ぶと温かくなることを感じたり、植物の変化に気付いたりする。
- 手洗い・うがいや衣服の調節を進んで行う。

(3) 保育に当たって

かかわりによって育まれる体験

ア 人とのかかわり

- 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わいながら、自分たちで遊びを進める姿を大切にし、保育者も様子を見ながら仲間に入り、楽しさを共有できるようにする。互いの思いを出し合い、自分たちで話し合う姿を見守りながら必要に応じて仲立ちするなどの援助をする。

他者理解 伝え合い 満足感 充実感 葛藤 自律心

- 年下の友だちを思いやって仲間に入れたり、片付けを手伝ったりする姿を大切にし、年長児として進んで行う姿を認めるようにする。

年長児としての自覚 自信 充実感

- 健康に過ごすためには手洗い・うがいが必要なことを自覚している姿を認め、衣服の調節なども一緒にやりながら、予防に努める。

自立心

イ ものとのかかわり

- 体を動かす楽しさや友だちと遊ぶ面白さを存分に味わえるように、ボールや砂場の道具などを準備し、自分たちで考えた遊びを楽しめるような道具や数、遊ぶ場（コートなど）を整えておく。

体を動かす楽しさ 想像力 創造力 満足感 充実感 達成感

- 自分のイメージしているものをつくってのびのびと表現できるように、必要な素材や用具を用意しておく。つくったもののイメージを聞きながら、子どもが膨らませるイメージを共有するようにしたい。

想像力 創造力 試行錯誤 満足感 充実感

- じっくりと遊びに取り組めるよう、必要な素材や用具、遊ぶ場を整えておく。出来上がった喜びや満足感に共感したい。

試行錯誤 満足感 達成感

ウ 自然とのかかわり

- 冬の寒さの中で、日なたや日かげの暖かさの違いを感じて自分たちの遊び場を選ぶ姿や、体を動かして温かくなってきたなどの感じたことを伝えてくる姿を見守り、様子を見ながら子どもたちの気付きを認めるような言葉掛けをする。

気付く 自然への慈しみ 感動体験

- 育てているヒヤシンスや畑の野菜、園庭の木々の変化に興味をもつ姿を認め、季節によって植物の様子が違うことを一緒に感じたい。

気付く 自然への慈しみ 感動体験

- 寒い時期の池の生き物や園庭の虫はどう過ごしているのかに興味をもち、友だちと話題にしながら、一緒に探す姿を大切にする。

気付く 自然への慈しみ 感動体験